

3. 地域労組から・藤田常任幹事

ブラジル人など、丸五ゴムを解雇された17人の雇用と生活を守るために、雇用調整助成金と日本語教育訓練を受けながら援助を続けてきた。この間に10人が就職したが、時間給は安く1,100円～1200円で働いている。残っている人たちは教育訓練を継続している。日本とブラジルとの就職協定があり、3年間日本で働くと保険料がブラジルでも継続され、それ以上は掛け捨てになることから保険料を払ってない労働者もいる。従って、病気になって入院するとお金がかかる結果となる。住宅も会社が保証人にならないと住居できず、保証人も2名必要となることから就労条件は厳しい。無法なことがあっても人権は守られないのが実態だ。岡山には千人のブラジル人がいると言われ、生活や子供の教育、住宅の確保が課題だ。高梁順正学園で働く事務労働者は、5年間働けば正式採用すると親会社から直接言われ、それ自体が偽装請負になっている派遣労働者が解雇されて裁判で頑張っている。またフルハーフ岡山という自動車のボディをつくる会社から出向を命じられ、相談に来た労働者は、これを拒否して組合にも加入して頑張ってきたが、執拗な会社からの命令にメンタルになり、自宅療養して職場復帰支援プログラムを受けていたが途中で解雇を言い渡された。団交拒否で、解雇無効を争って裁判をしている。派遣会社グループに働く労働者も残業代未払いで団交拒否もあり労働審判で闘っている。地域労組のニュースなども参考に支援をいただきたい。